

## 首都大学東京 学長 上野 淳 氏 (高校19期)



1967年 3月	東京都立立川高等学校 卒業
同年 4月	東京都立大学・工学部・建築工学科 入学
1977年 3月	東京都立大学大学院博士課程 修了(工学博士)
1977年12月	東京都立大学・工学部・助手
1984年10月	東京都立大学・工学部・助教授
1993年 4月	東京都立大学・工学部・教授
2005年 4月	首都大学東京・都市環境学部・教授 (都立大学統合再編成) 首都大学東京・基礎教育センター長
2009年 4月	首都大学東京 理事・副学長 大学教育センター長
2015年 4月	首都大学東京 学長

立川高校の皆さん、こんにちは。立川高校19期生の上野淳です。

私は1967年3月に立川高校を卒業し、首都大学東京の前身である東京都立大学工学部建築学科に入学しました。以来、大学院(修士課程、博士課程)を経たのち幸運にも母校の教員に採用され、ずっと同じ大学で過ごしてきました。この度はからずも4月から学長を拝命することになり、人生の大半を愛してやまない母校で過ごすことができる幸せを感じています。

私の専門は建築学、なかでも建築計画学といって、建築・都市をデザインするにあたって必要になる基礎的な計画理論を追及する分野です。具体的には、学校、病院、高齢者施設などの地域公共施設の計画論、人が空間のなかでその環境をどのように感受するかを追求する環境心理学、最近ではニュータウン再生などの都市スケールの再生研究なども手掛けてきました。大学教授としては定年退官しましたが、全力投球で研究・教育に没頭してきましたので、充実感に溢れた人生を歩めたとの感慨をもっています。

何故このように没頭できたのか。とさまざまな要因があると思います。まずは建築学という自分の個性にあうフィールドに出会えたこと、次に尊敬してやまない師匠や先輩方、同僚に恵まれたこと、研究室に集まってくれた資質の高い学生たちに恵まれたこと、など幾つかの幸運があったことを実感します。

特に、研究室の卒論生や大学院生との研究面での熱い議論・交流は小生にとって得難い財産です。私の研究室から育ていった卒論生、大学院生は延べ200名になります。彼らとは折に触れ今でも交流が続いていますが、大学での研究・教育は教員と学生の相互の教え合いだと考えてきました。学生の自由な発想を引き出すようにしてきたつもりですし、小生のアドバイスがその学生の思索に有益な示唆を与えた時、優れた研究論文が誕生すると感じてきました。

在校生諸君へのアドバイスです。自分の好きな分野、没頭できると想う分野をよく考え、それに従って大学選びをしていただきたいと思います。好きな道を見つけること、没頭できる分野を見つけて邁進すること、これが成功の秘訣だと考えますし、そのような道を歩める人生は幸せだと想います。

立川高校での思い出も小生の人生で得がたい財産です。在校生諸君の健闘をお祈りします。



若葉台小学校(上野氏:設計監修)



研究室の学生達と